

Scalar i500 スタート ガイド

はじめに	3
ステップ 1: ライブラリの開梱	4
ステップ 2: ラックへのライブラリの取り付け (5U と 14U はオプション)	5
ステップ 3: モジュールの取り付け	5
スタンドアロンユニットとしての制御モジュールの使用	5
マルチ モジュール ライブラリ構成の使用	5
ステップ 4: モジュール コンポーネントの取り付け	10
ステップ 5: テープ ドライブ ケーブルの接続	11
LTO-5 テープ ドライブに関する特記事項	11
パラレル SCSI ケーブルの接続	12
ホストまたはスイッチへの Fibre Channel ケーブルの直接接続	14
Fibre Channel ケーブルを Fibre Channel I/O ブレードに接続.....	14
SAS (Serial Attached SCSI) ケーブルの接続	15
ステップ 6: ライブラリのケーブル接続	17
ステップ 7: ライブラリ設定	18
ステップ 8: ライブラリの実行	20

米国製

Quantum Corporation はこの出版物を「現状のまま」提供し、商品性、特定目的への適合性などの明示保証や黙示保証は一切行いません。Quantum Corporation はこの出版物を予告なく改訂する場合があります。

著作権情報

© Copyright 2010 by Quantum Corporation. All rights reserved.

このマニュアルのコピー権は著作権法によって制限されています。Quantum Corporation の書面による事前の許可なくコピーや派生品を作成することは、法律によって禁じられており、法律違反として処罰の対象となります。

商標情報

Quantum、Quantum ロゴ、および Scalar は、Quantum Corporation の登録商標です。
その他の商標は各所有会社に帰属します。

はじめに

『Scalar i500 スタートガイド』では、Scalar i500 ライブラリの開梱、セットアップ、取り付けに必要な手順の概要を説明します。ライブラリの設定および実行ならびに部品の追加、取り外し、交換の詳細については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。

この製品にはリリースノートもあります。リリースノートでは、前回のリリース以降にシステムまたはファームウェアに加えられた変更、互換性、既知の問題点と回避策を説明します。リリースノートは、www.quantum.com から入手できます。その他のドキュメントの一覧は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。

注： 本製品を使用される前に、本書と『システム、安全、規制情報ガイド』に記載されているすべての説明と警告をお読みください。なお、本書は必ず『Scalar i500 ユーザーズガイド』と合わせてご使用ください。

警告： 5U 制御モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置を除いて約 26kg です。9U 拡張モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置がない状態で、30kg 以上あります。けがを避け、安全に設置位置にモジュールを持ち上げるのには 2 人必要です。

警告： 電源コンセントはライブラリの近くに置き、すぐにアクセスできる必要があります。

警告： 14U 以上のライブラリはすべて、主要保護接地 (アース) 端子付きのラックに設置し、電源は工業用プラグと壁コンセントか、断面積が 1.5 mm^2 (14 AWG) 以上の IEC 60309 (または該当する国内の基準) 準拠の保護接地 (アース) コンダクタが備わった電源接続器、またはその両方を使用して供給する必要があります。

ライブラリの前面と背面には、通気と作業用のスペースを 60 cm ほど空けてください。

警告： ラックにモジュールが 1 つでも取り付けられている場合は、ラックを移動しないでください。

ステップ 1：ライブラリの開梱

注意： 梱包材料とオレンジ色のロボット固定用アセンブリは、将来ライブラリを移動したり、輸送する場合に備えて保管しておいてください。

- 1 ライブラリに同梱の開梱説明書に従って、ライブラリ外側のパッケージを取り除きますが、ライブラリは下方のパッケージトレイに入れたままにしておきます。
- 2 パッケージの内容を梱包票に照らし合わせて確認します。
- 3 内側のパッケージを取り除きます。

注意： 次のものは必ず取り外してください。

- ロボットをライブラリのフロアに安全に固定するためのオレンジ色のロボット固定用アセンブリ
- I/E ステーションについている黄色の小片

警告： 5U 制御モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置を除いて約 26kg です。9U 拡張モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置がない状態で、30 kg 以上あります。けがを避け、安全に設置位置にモジュールを持ち上げるには 2 人必要です。

- 4 ライブラリからテープドライブを取り外します。
テープドライブの取り外し方については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 5 ライブラリから電源を取り外します。
電源の取り外し方については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 6 ライブラリの設置に最適な場所を選びます。
破損を避けるため、ライブラリは安定した場所に設置します。お使いのライブラリの最適な設置場所に関する詳細については、『システム、安全、規制情報ガイド』を参照してください。

警告： 電源コンセントはライブラリの近くに置き、すぐにアクセスできる必要があります。

- 電源 (製品ラベル記載タイプのみ) が使用可能であることを確認します。電源要件については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- ケーブルは、踏んだり下敷きになって押されたり挟まれたりしないように配置します。壁のレセプタクルとライブラリからコードが出ている場所については特に注意してください。推奨されるケーブルの取り付け手順については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- ライブラリのケースの開口部分に物が落ちたり、液体が入らないようにしてください。

ステップ 2 : ラックへのライブラリの取り付け (5U と 14U はオプション)

14U より高いすべての Scalar i500 ライブラリはラックに取り付ける必要があります。ラックは一番下のモジュールを固定し、他のすべてのモジュールはこの一番下のモジュールに固定します。ラックへモジュールを取り付けるときは、2人以上で行う必要があります。手順は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。

ステップ 3 : モジュールの取り付け

2通りのライブラリ構成が可能です。

- [スタンドアロンユニットとしての制御モジュールの使用](#)
- [マルチモジュールライブラリ構成の使用](#)

スタンドアロンユニット としての制御モジュール の使用

- 1 ライブラリの I/E ステーション ドアとアクセス ドアを開きます。

注： I/E ステーションのドアがロックされている場合は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』でロック解除手順を参照してください。

- 2 制御モジュールを持ち上げ、希望の場所に設置します。
- 3 制御モジュールをラックに取り付ける場合は、ラック イヤーを使って制御モジュールをラックにしっかりと固定します。手順は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 4 10 ページの「[ステップ 4 : モジュール コンポーネントの取り付け](#)」に従って取り付けを続行します。

マルチモジュール ライブラリ構成の使用

新しくマルチモジュールのライブラリを取り付ける、または既存のライブラリに拡張モジュールを追加する場合は次の手順に従います。

必要な工具：

- 上部カバー プレートの取り外しと取り付けに使用するプラス ドライバ
- 下部カバー プレートの取り外しと取り付けに使用する T10 トルクス ドライバ

制御モジュールはライブラリ構成のどこにでも取り付けが可能です。32U までのライブラリ構成の場合は、制御モジュールを、設置されているすべての 9U 拡張モジュールの上に置くことをお勧めします。41U のライブラリ構成の場合は、制御モジュールを、3つの 9U 拡張モジュールの上、一番上の拡張モジュールの下に置くことをお勧めします。構

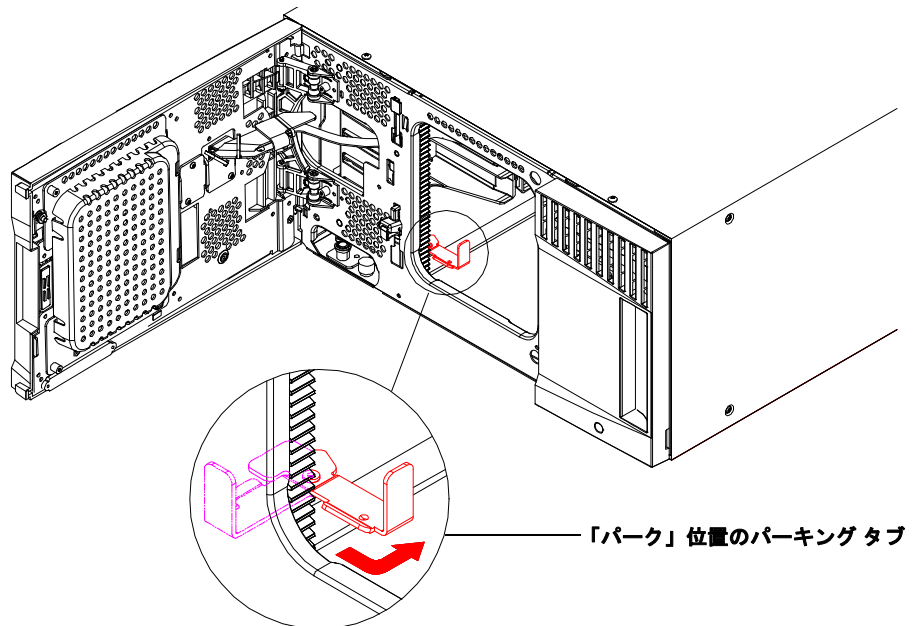
成によっては、各モジュールの上面と底面のカバープレートを取り外して、ライブラリに上面カバーと底面カバーが1つずつしかないことを確認する必要があります。

				カバープレート
			カバープレート	拡張モジュール
		カバープレート	制御モジュール	制御モジュール
	カバープレート	制御モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール
カバープレート	制御モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール
制御モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール
カバープレート	カバープレート	カバープレート	カバープレート	カバープレート
5U	14U	23U	32U	41U

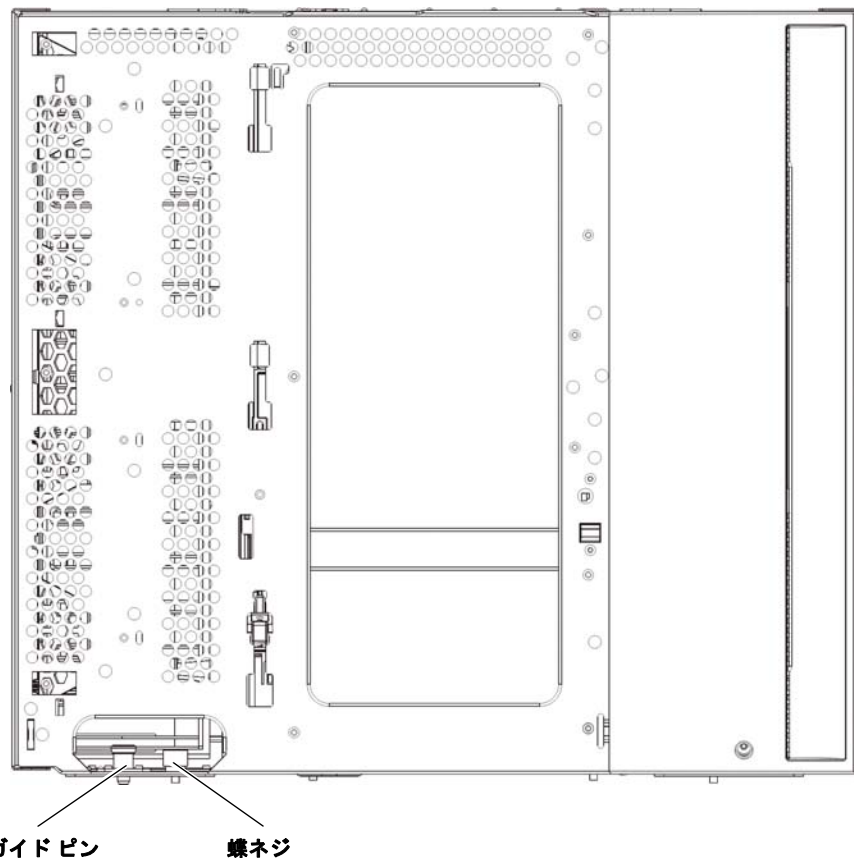
- 1 ロボットアセンブリを制御モジュールでパークします。
 - a 各モジュールの I/E ステーション ドアとアクセスドアを開きます。
 - b ロボットアセンブリを手で慎重に持ち上げ、制御モジュールの中に入れます。ロボットアセンブリをゆっくりとスライドさせます。

注意： ロボットアセンブリは、幅広の金属製 X 軸プレートで支えてください。金属製の細い棒を持ってロボットを持ち上げると、棒が曲がります。

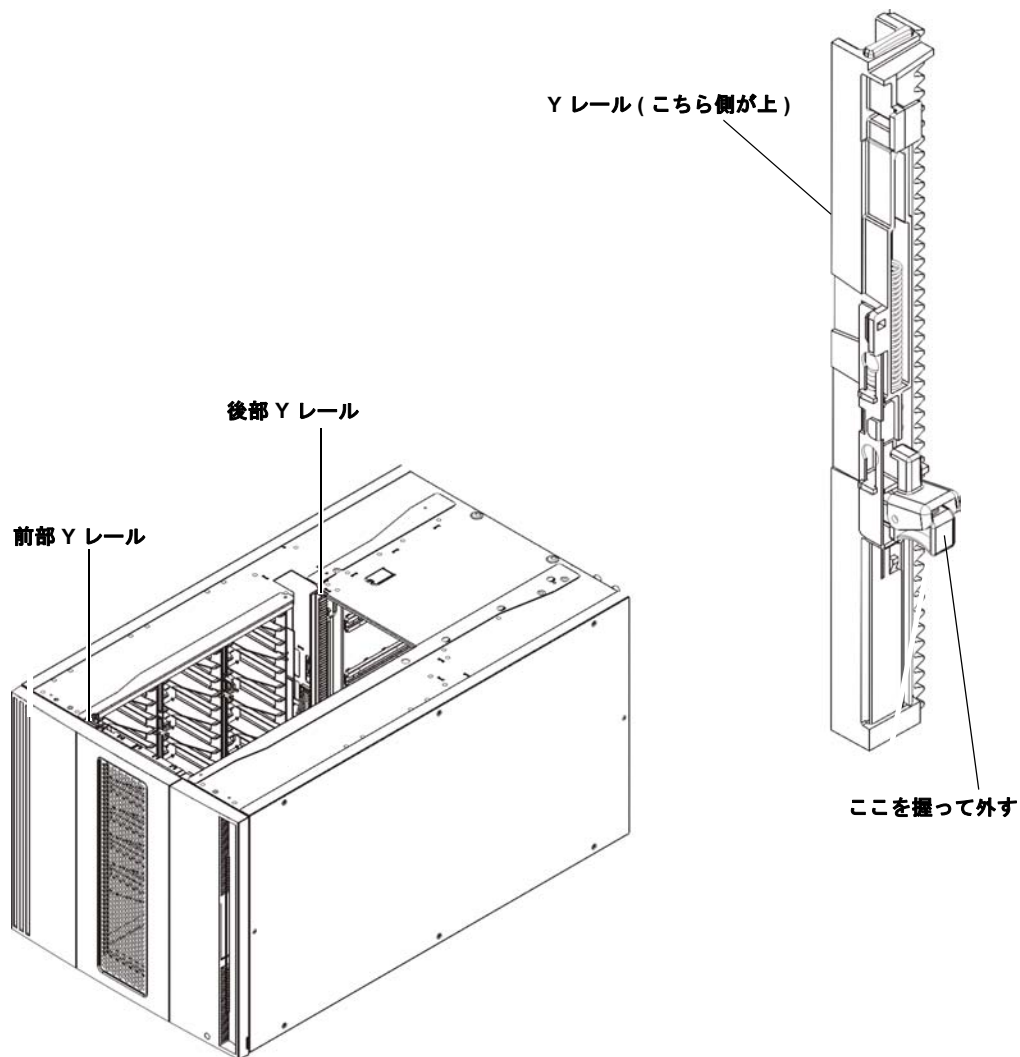
- c ロボットアセンブリを制御モジュールの中程まで持ち上げ、一方の手でその位置に保ちながら他方の手でパーキングタブを「パーク」位置で止まるまで左方向に回します。金属製のパーキングタブは列1の一番下にあります。
 - d ロボットアセンブリをゆっくりと下げて、パーキングタブの上に乗せます。



- 2 必要に応じて上または下のカバー プレートを外します。
最終構成の上カバーと下カバーは各 1 枚のみになります。モジュール間にカバー プレートがあってははいけません。
- 3 拡張モジュールを取り付けます。
 - a 拡張モジュールのアクセス ドアを開き、ガイド ピンを上に引き、ネジのように少し回転させて浮かせます。この操作を怠ると、下のモジュールの前面ドアに傷がつくことがあります。あります。



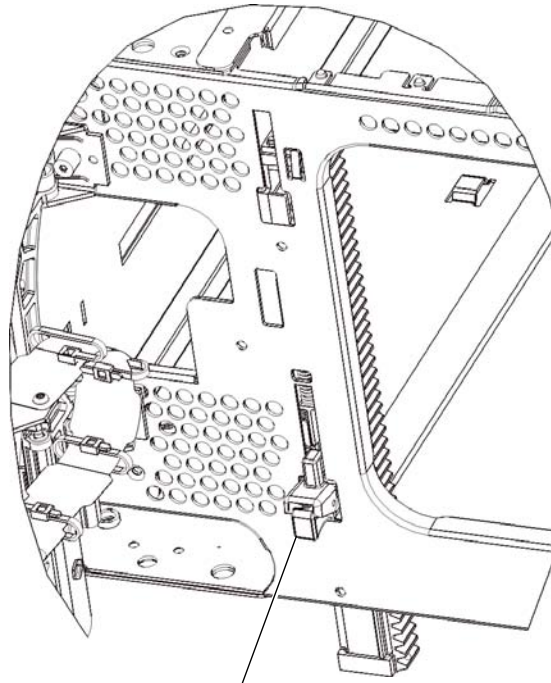
- b 新しい拡張モジュールを持ち上げ、ライブラリの前面から希望の場所に設置します。
- c 拡張モジュールを別のモジュールの上に積み重ねる場合は、(モジュールの前面底部にある)モジュールのガイドピンを回しながら押し下げます。モジュールの前面底部と裏面底部にあるそれぞれ 2 本の蝶ねじを締めて 2 台のモジュールを固定します。
- d モジュールの前面と背面の底部にある蝶ネジをすべて締めます。
- e ラックに取り付ける場合は、ラック イヤーを使ってモジュールをラックに固定します。手順は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- f 拡張モジュールを別のモジュールの上に積み重ねる場合は、ライブラリ構成に新設モジュールの Y レールをはめ込みます。Y レールが正しくはめ込まれ、蝶ネジが締まっていることを確認します。



- g** ライブラリの前面から、拡張モジュールの I/E ステーションと前面ドアを開きます。Yレールの開放つまみを起こしてロック位置から開放し、下までスライドさせます。
- h** ライブラリ背面から、モジュール内部右側にある後部 Yレール開放つまみを見つけます。Yレールの開放つまみを起こしてロック位置から開放し、下までスライドさせます。

注意： ライブラリの前面と背面にある上部と下部の Yレールの上に、隙間がないことを確認してください。隙間があると、ライブラリは機械的に初期化を実行できません。

上記の手順により、このモジュールの Yレールと下のモジュールの Yレールが揃います。

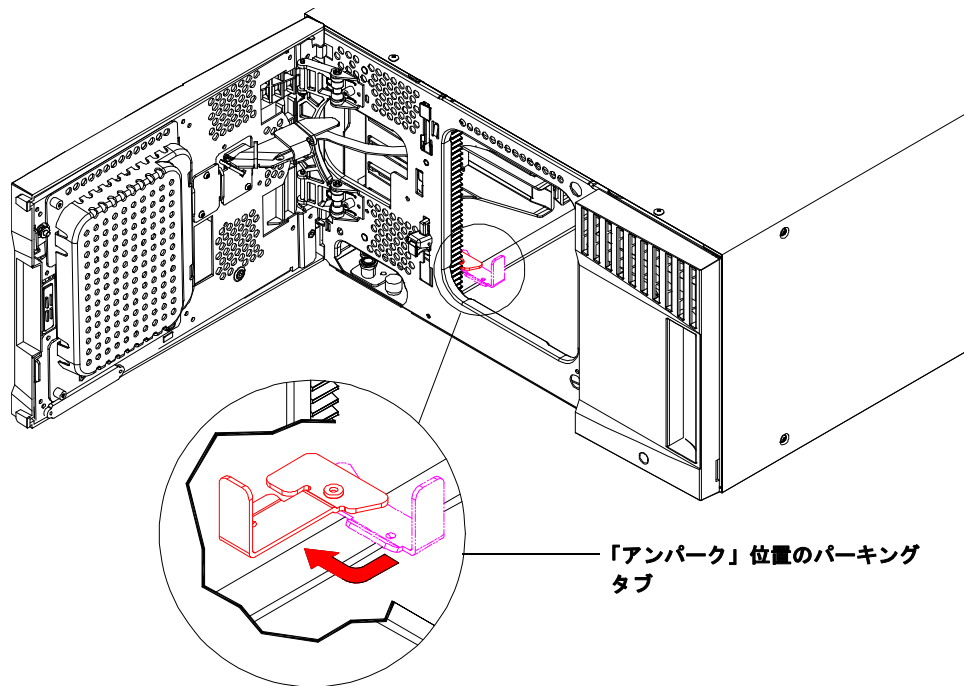


Y レール (アンロックされた作動位置)

- i 取り付けるそれぞれの拡張モジュールについてこの手順を繰り返します。
- 4 制御モジュールを取り付けます。
 - a 制御モジュールの I/E ステーション ドアとアクセス ドアを開きます。
 - b 制御モジュールを持ち上げ、希望の場所に設置します。
 - c 制御モジュールを別のモジュールの上に配置する場合は、モジュール前面の底部にある 2 本の蝶ネジと、モジュール背面の底部にある 2 つの蝶ネジを使用して、これら 2 つのモジュールを固定します。次に、モジュールのガイドピン (モジュール前面の底部) を回して押し下げます。
 - d モジュールの前面と背面の底部にある蝶ネジをすべて締めます。
 - e ラック イヤーを使って、制御モジュールをラックに固定します。手順は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- 5 ロボット アセンブリをアンパークします。
 - a ロボット アセンブリをゆっくりと持ち上げて、パーキング タブから開放します。

注意： ロボット アセンブリは、幅広の金属製 X 軸 プレートで支えてください。金属製の細い棒を持ってロボットを持ち上げると、棒が曲がります。

- b 他方の手で、「アンパーク」位置で止まるまでパーキング タブを右方向に回します。正しい位置では、パーキング タブはモジュールの内部から完全に出ており、ロボットの通路に誤って移動することはありません。
- c ロボット アセンブリをゆっくりと放します。ライブラリの一番下のモジュールまで下がります。



ステップ 4 : モジュール コンポーネントの取り付け

以下の手順の詳細については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。

- 1 まだ設置されていない場合は、制御モジュールにライブラリ制御ブレード (LCB) を取り付けます。
- 2 テープドライブを取り付けます。
- 3 電源装置を取り付けます。
- 4 Fibre Channel I/O ブレードを取り付けます (必要かつまだ取り付けられていない場合)。
- 5 ライブラリの I/E ステーションドアとアクセスドアを閉じます。

ステップ 5 : テープ ドライブ ケーブルの接続

お使いのライブラリに設置されたテープ ドライブの種類に応じて以下の説明を参照してください。次の接続について説明が用意されています。

- 11 ページの「[LTO-5 テープ ドライブに関する特記事項](#)」
- 12 ページの「[パラレル SCSI ケーブルの接続](#)」
- 14 ページの「[ホストまたはスイッチへの Fibre Channel ケーブルの直接接続](#)」
- 15 ページの「[Fibre Channel ケーブルを Fibre Channel I/O ブレードに接続](#)」
- 16 ページの「[SAS \(Serial Attached SCSI\) ケーブルの接続](#)」

ライブラリは SCSI、FC、SAS ドライブのどの組み合わせも可能で、ホストに直接 または Fibre Channel I/O ブレード経由で接続できます。次の説明のうち、複数の説明を参照することが必要な場合があります。詳細な説明は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

LTO-5 テープ ドライブに関する特記事項

現在、ライブラリでは LTO-5 テープ ドライブにある以下の機能の使用はサポートされていません。

- イーサネット ポート
- デュアルポート テープ ドライブ上のポート 2

詳細は、[図 1](#)、[図 2](#)、および [図 3](#) を参照してください。

図 1 HP LTO-5 デュアルポート Fibre Channel テープ ドライブ

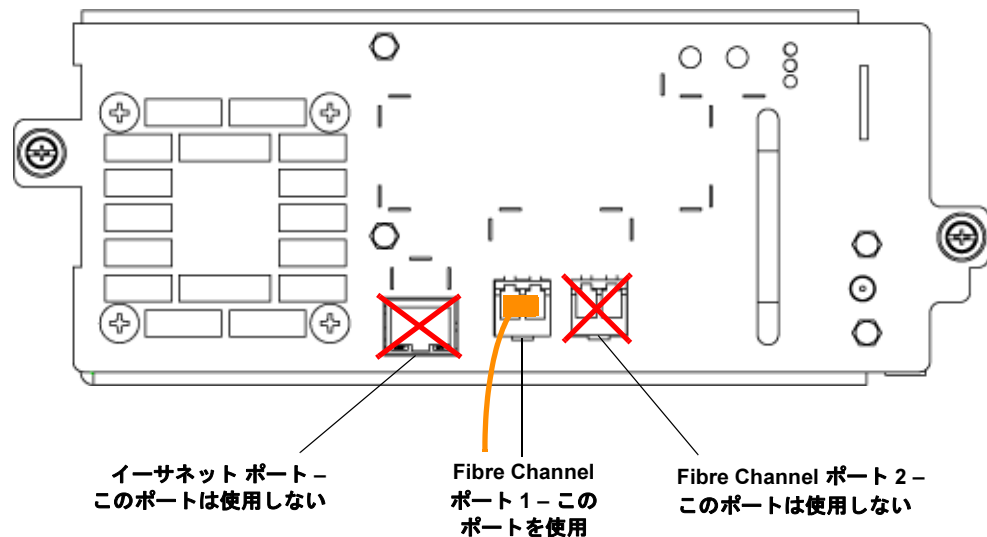


図2 HP LTO-5 シングル
ポート SAS テープドライブ

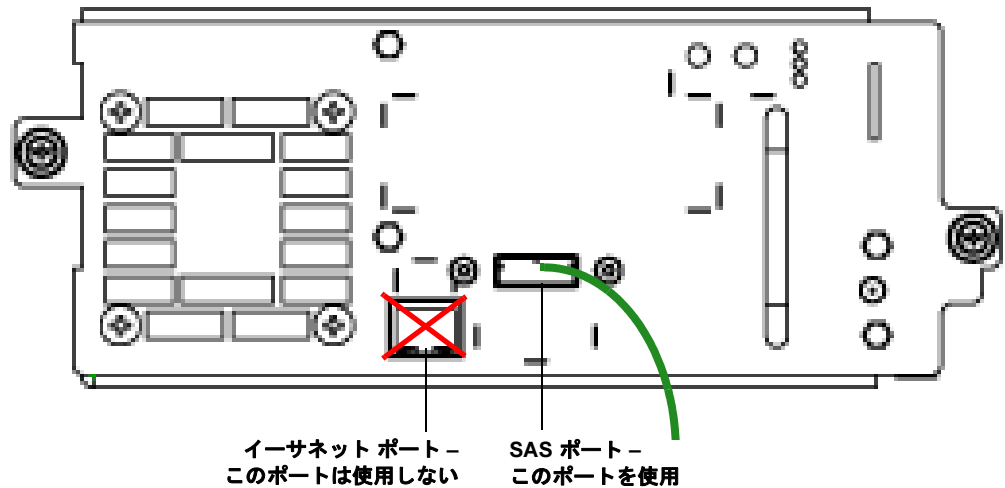
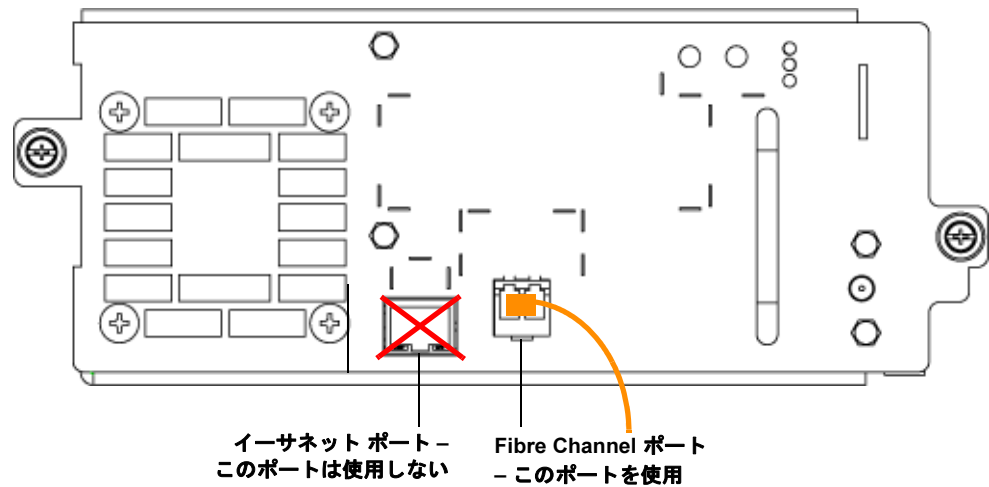


図3 IBM LTO-5 シングル
ポート Fibre Channel テープ
ドライブ



パラレル SCSI ケーブルの 接続

SCSI テープドライブの配線については、1つの SCSI バスに1つのテープドライブを接続する、または SCSI バスに2つのテープドライブを接続するといった2通りの方法を推奨します。

注意： ライブラリは (内部配線を含み) 最長 12 メートルの Ultra 160 SCSI と Ultra 320 SCSI ケーブルをサポートします。

1 つの SCSI バスに 1 つのテープドライブを接続するには、次の手順に従います。

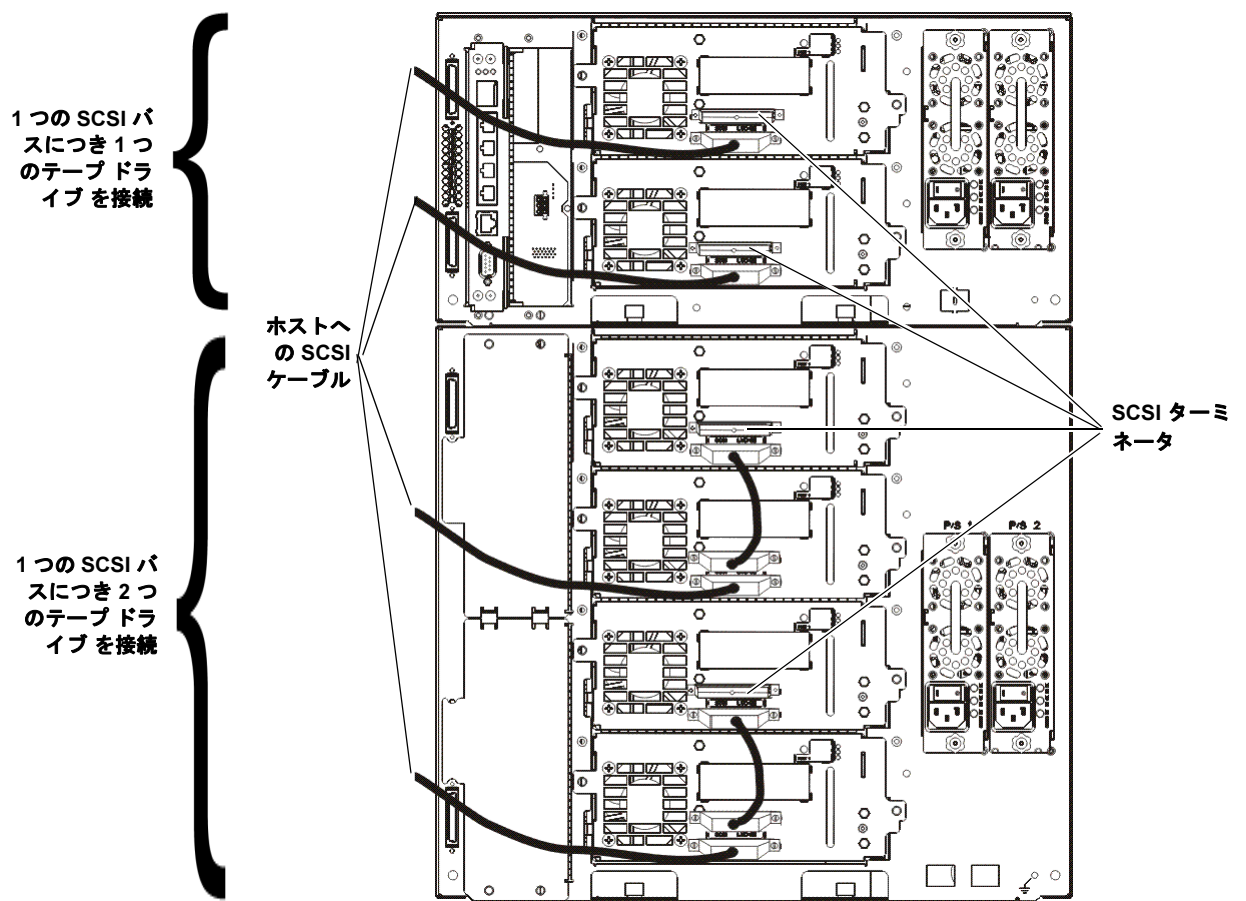
- 1 SCSI ケーブルを使用して、テープドライブの一番下のポートをホストシステムに接続します。
- 2 SCSI ターミネータを装着して、テープドライブの一番上のポートを終端処理します。

1 つの SCSI バスに 2 つのテープ ドライブ を接続するには、次の手順に従います。

- 1 SCSI ケーブルの一端を一番下のテープ ドライブの一番上の SCSI ポートに接続します。次にケーブルのもう一端をすぐ上のテープ ドライブの一番下の SCSI ポートに接続します。性能上の問題を回避するために、1 つの SCSI バス にテープ ドライブを 3 つ以上接続しないでください。

注： 2 台のテープ ドライブは、長さが 30 cm 以上の SCSI ケーブルで接続します。

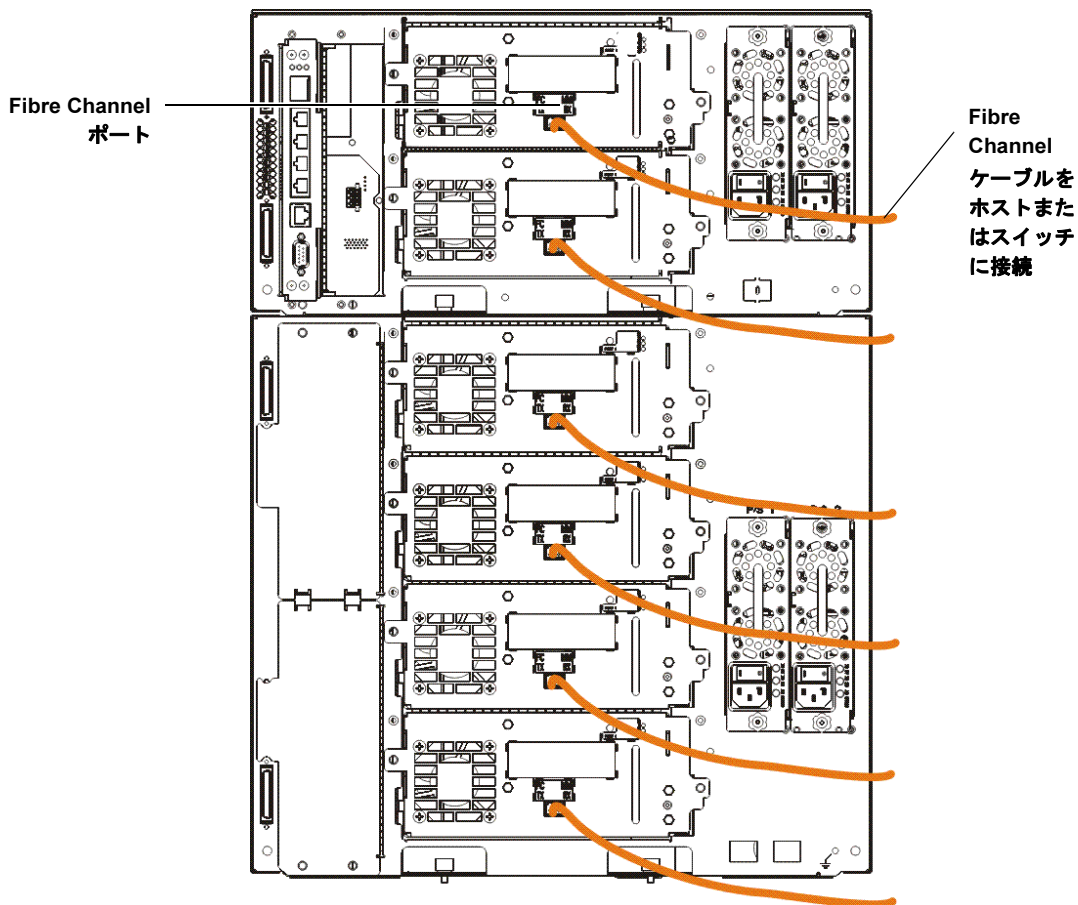
- 2 もう 1 本の SCSI ケーブルを使用して、SCSI バスの一番下のテープ ドライブをホスト システムに接続します。
- 3 SCSI ターミネータを使用して、SCSI バスの一番上のテープ ドライブを終端処理します。



ホストまたはスイッチへの Fibre Channel ケーブルの 直接接続

各テープドライブで次の作業を行います。

- 1 Fibre Channel ケーブルの一端をテープドライブの Fibre Channel ポートに接続します。
- 2 ケーブルのもう一端をホストまたはスイッチに接続します。



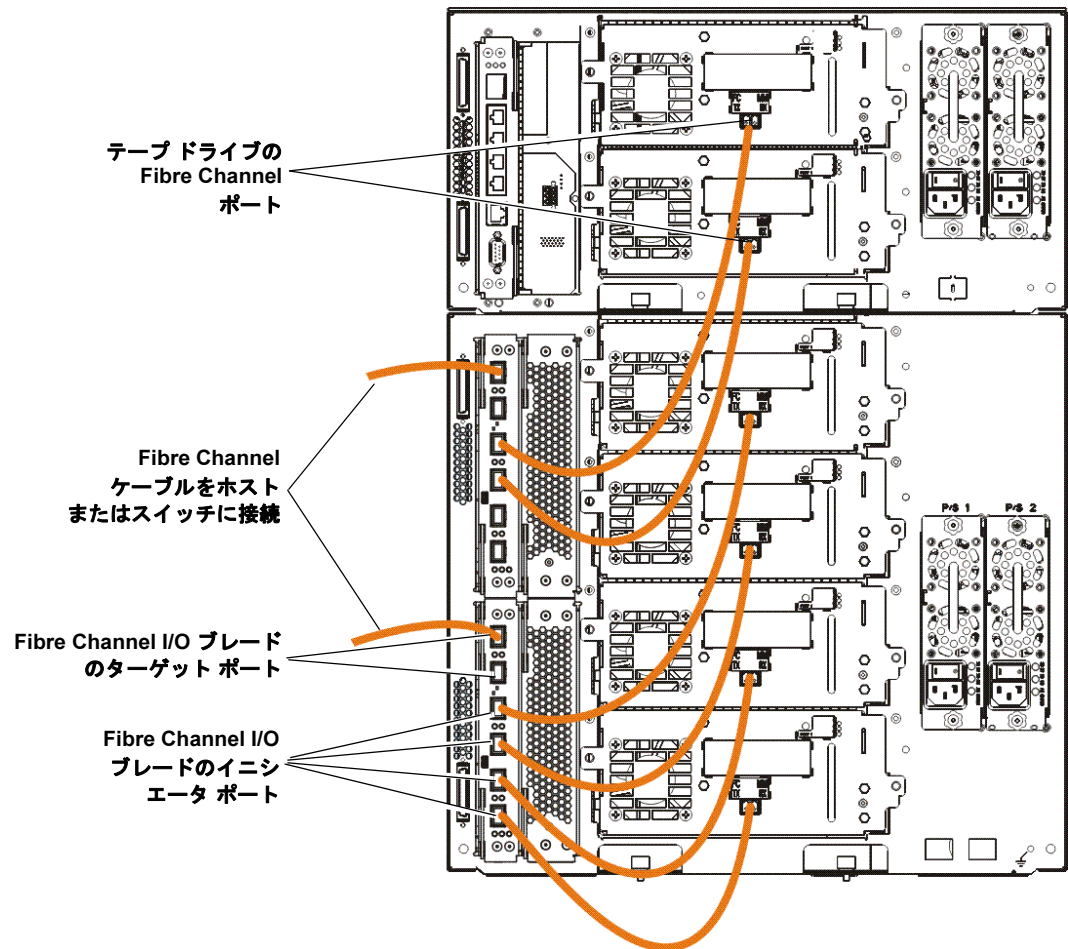
Fibre Channel ケーブルを Fibre Channel I/O ブレード に接続

各テープドライブで次の作業を行います。

- 1 Fibre Channel ケーブルの一端をテープドライブの Fibre Channel ポートに接続します。
- 2 ケーブルのもう一端を一番近くの Fibre Channel I/O ブレードのイニシエータポート（下方のポート 3～6）のいずれかに接続します。

各 Fibre Channel I/O ブレードで次の作業を行います。

- 3 Fibre Channel ケーブルの一端を Fibre Channel I/O ブレードのターゲットポート（上方のポート 1 と 2）のどちらかに接続します。
- 4 ケーブルのもう一端をホストまたはスイッチに接続します。

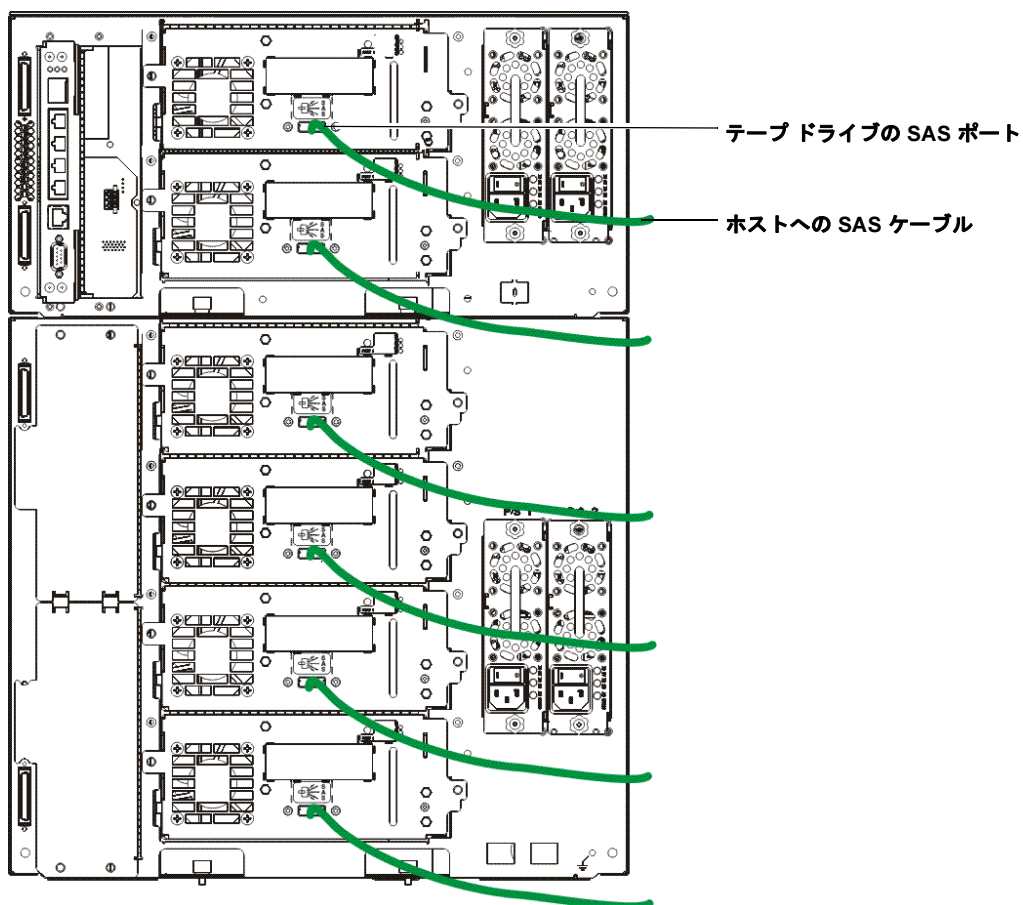


SAS (Serial Attached SCSI) ケーブルの接続

各テープドライブで次の作業を行います。

- 1 SAS ケーブルの一端をテープドライブの SAS ポートに接続します。
- 2 ケーブルのもう一端をホストに直接接続します。

注意： ライブラリは、標準 SAS 規格準拠の SAS ホスト ケーブル長をサポートします。



ステップ 6 : ライブラリのケーブル接続

- 1 制御モジュールと拡張モジュールのモジュール コネクタをカバーしているプラスチック製の保護キャップを外します。
- 2 モジュール ケーブルとモジュール ターミネータを接続します。

すべてのライブラリはモジュール ターミネータを使用する必要があります。複数のモジュールで構成されるライブラリではモジュール間ケーブルを使用する必要があります。

注意 : モジュール ターミネータは、SCSI ターミネータとは異なります。モジュール ターミネータの代わりに SCSI ターミネータを使用するとライブラリを損傷することがあります。モジュール ターミネータは、プラスチック包装されて、制御モジュールの裏面に結び付けられていることがあります。

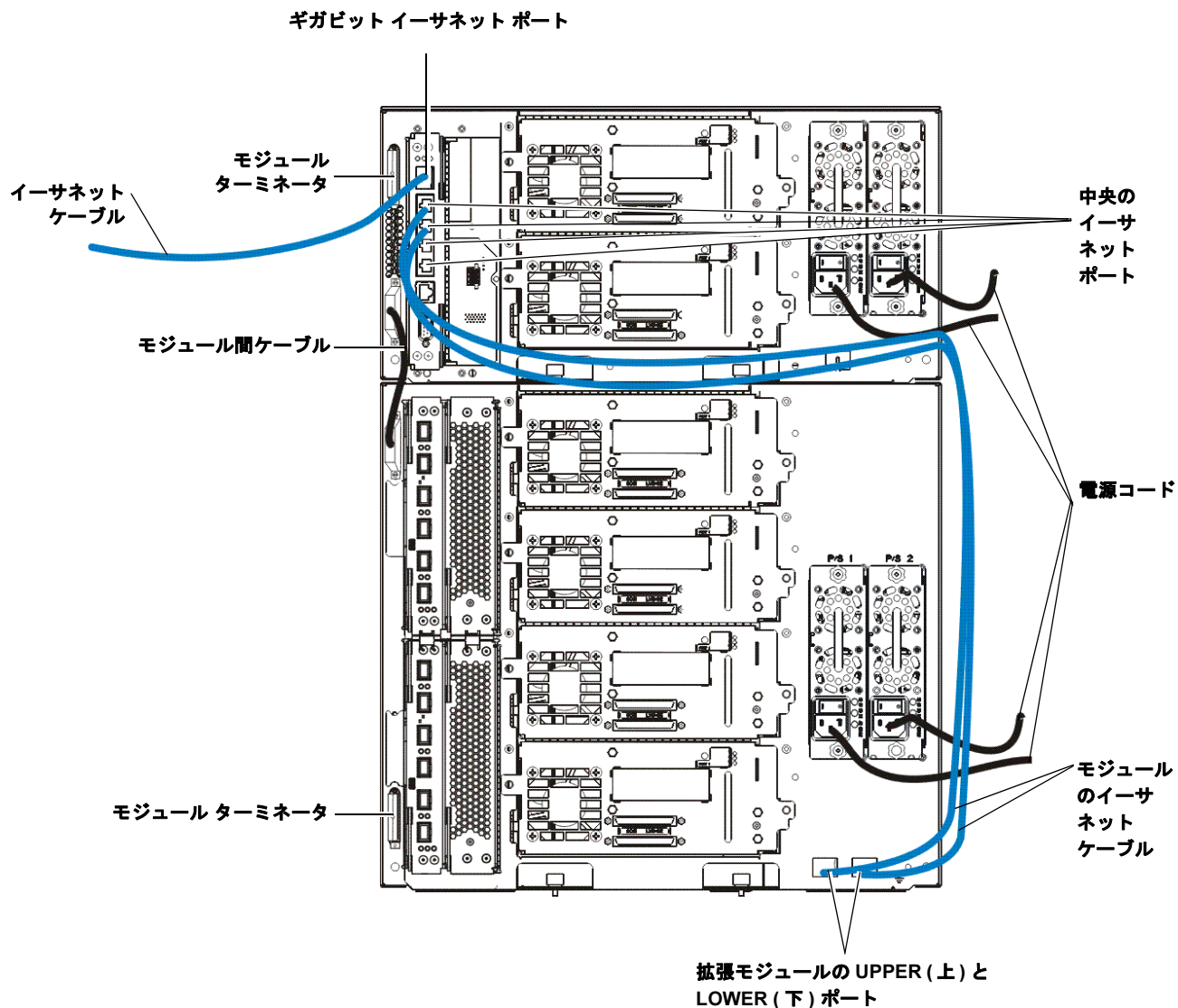
- a 付属品キットのモジュール間ケーブルを使用して、それぞれのモジュールを上側のモジュールに接続します。ケーブルの一端を一番下のモジュールに接続します。次にケーブルのもう一端をすぐ上のモジュールに接続します。
 - b 制御モジュールの裏面に結ばれているモジュール ターミネータを使って、一番上と一番下のモジュールを終端します。
- 3 ライブラリのイーサネット ケーブルを接続します。

ウェブ クライアント経由でライブラリへリモート アクセスするためのライブラリ制御ブレード (LCB) の一番上にあるギガビット イーサネット ポートにイーサネット ケーブルを接続します。(イーサネット ケーブルは付属品ではありません。)

- 4 モジュールのイーサネット ケーブルに接続します (必要な場合)。
お使いのライブラリに 1 つでも Fibre Channel I/O ブレードが含まれる場合はこの手順を実行してください。
イーサネット ケーブルを使用して、ライブラリの制御モジュールの LCB を Fibre Channel I/O ブレードを含む拡張モジュールのそれぞれに接続します。拡張モジュールに取り付けられた各 Fibre Channel I/O ブレードについて、次の作業を行います。
- a イーサネット ケーブルの一端を LCB イーサネット ハブ中央にある 4 つのイーサネット ポートのいずれかに接続します。(一番上のポートは、ウェブ クライアント経由によるライブラリへのリモート アクセス用で、一番下のポートはサービス アクセス用です。)
 - b ケーブルのもう一端を 9U 拡張モジュールの適切なポートに接続します。Fibre Channel I/O ブレードが上のベイに取り付けられている場合は、「UPPER (上)」と表示されているポートを使用します。Fibre Channel I/O ブレードが下のベイに取り付けられている場合は、「LOWER (下)」と表示されているポートを使用します。
- 5 電源コードを接続します。

テープ ドライブを内蔵しているモジュールそれぞれに最低 1 つの電源が必要です。

それぞれの電源について、電源コードの一端を電源に接続します。次に、もう一端を近くの (製品ラベルに記載されている種類の) 接地電源コンセントに接続します。



ステップ 7: ライブラリ設定

- 1 ライブラリの電源を入れます。
 - a 各電源装置の後部にある電源スイッチをオンにします。
 - b ライブラリ前面の電源スイッチを一度押します。
 - c ホストシステムの電源を入れます。
- 2 バス上の全デバイスとの通信を確認します。
- 3 ライブラリを設定します。

初めてライブラリに電源を入れると、オペレータ パネルにセットアップ ウィザードが表示されます。セットアップ ウィザードを使うと、ネットワークの設定、日時の設定、ユーザー アカウントの作成、I/E スロットの設定を含め、ライブラリの使用を開始するためのその他のタスクを実行できます。オペレータ パネルで [Setup Wizard] (セットアップ ウィザード) の使用を開始する必要があります。初期設定後、ウェブ クライアント上で引き続きセットアップ ウィザードを使用できます。

注： 初期設定をスキップすることも、途中で中止することもできます。そうした場合は、指定しなかった設定には変更されるまで次のデフォルト設定が割り当てられます。

- DCHP 有効
- I/E ステーション スロット 6 個
- クリーニング カートリッジ スロット 0 個
- ライブラリは、テープ ドライブをそのインターフェイス タイプ (SCSI、FC、SAS) とベンダーに従ってグループ化してパーティションを作成し、使用可能なライブラリ リソースをそれらのパーティション 間で比例的に配分します。

注： オペレータ パネルのセットアップ ウィザードは、最初にライブラリに電源を入れたときに一度だけ表示されます。オペレータ パネルでネットワーク設定を指定するまで、ウェブ クライアントにログインできません。ネットワーク設定を指定する前にオペレータ パネルのセットアップ ウィザードを終了した場合は、ウェブ クライアントにログインする前に、オペレータ パネル (**Setup (セットアップ) > Network Mgmt (ネットワーク管理)**) でネットワーク設定を指定する必要があります。

以下は、セットアップ ウィザードを使用して初期設定をするときに推奨される手順です。

- ライブラリの電源を入れ、オペレータ パネルでセットアップ ウィザードを使い始めます。
- ウェブ クライアント からライブラリにアクセスできるようにするネットワーク設定の入力が求められます。この手順は必ず完了してください。
- ライブラリの IP アドレスを使って、ウェブ クライアント を開きます。ライブラリの IP アドレスを表示するには、オペレータ パネルで **Setup (セットアップ) > Network Mgmt (ネットワーク管理)** を選択します。
- デフォルトの管理アカウントを使用して、次に示すようにウェブ クライアントにログインします。
 - User Name (ユーザー名) : **admin**
 - Password (パスワード) : **password**
- ウェブ クライアントの [Setup Wizard] (セットアップ ウィザード) 画面を完了します。最後の [Setup Wizard] (セットアップ ウィザード) 画面で設定を適用します。

セットアップ ウィザードが完了すると、[Library Configuration] (ライブラリ設定) レポートがウェブ クライアントに表示されます。[Library Configuration] (ライブラリ設定) レポートには、ライブラリのテープ ドライブ、パーティション、I/E ステーション、ストレージ スロット、ロードされているメディアに関する情報が表示されます。

ストレージ スロット、暗号キー管理、または詳細レポート用の追加のライセンスが必要な場合は、テクニカル サポートまでご連絡ください。テクニカル サポートの連絡先情報については、<http://www.quantum.com/support> をご覧ください。

ライブラリ設定の詳細手順は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。ライブラリのオンライン [Help (ヘルプ)] も参照してください。オンラインヘルプシステムにアクセスするには、ウェブクライアントまたはオペレータパネルの右上にある **Help (ヘルプ)** アイコンをクリックします。

注： SMI-S はデフォルトでは無効になっています。SMI-S を有効にする場合は、オペレータパネルで **Tools (ツール) > System Settings (システム設定) > Enable SMI-S (SMI-S を有効にする)** を選択して、手動で有効にする必要があります。

- 4 ライブラリにテープカートリッジをロードします。
テープカートリッジをインポートして一括ロードする手順は、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 5 テープドライブをパーティションに割り当てます (I/E コマンドを使用する場合)。
手動によるカートリッジの割り当てが有効 (デフォルト設定) になっていると、カートリッジをパーティションに割り当てるまで I/E コマンドでインポートできません。オペレータパネルの **Assign IE (IE の割り当て)** 画面で、カートリッジをパーティションに割り当てるように指示されます。

手動によるカートリッジの割り当てが無効になっていると、**Assign IE (IE の割り当て)** 画面は表示されず、I/E ステーションのカートリッジはすべてのパーティションのみでなく、システムパーティションにも表示され、どのパーティションからも使用することができます。詳細については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 6 ホストアプリケーションに接続します。
ライブラリのホストアプリケーションへの接続を確立します。ホストアプリケーションが各テープカートリッジの場所をインベントリする場合は、ホストアプリケーションを開いてインベントリを実行し、ライブラリの論理インベントリと物理インベントリを同期化します。

手順の説明については、ホストアプリケーションの文書を参照してください。
- 7 ライブラリを登録します (ウェブクライアントで、**Setup (セットアップ) > Register Library (ライブラリの登録)** を選択します)。

ステップ 8 : ライブラリの実行

これでライブラリを使用する準備が完了しました。ライブラリの使い方については、『Scalar i500 ユーザーズガイド』を参照してください。ライブラリのオンライン [Help (ヘルプ)] も参照してください。オンラインヘルプシステムにアクセスするには、ウェブクライアントまたはオペレータパネルの右上にある **Help (ヘルプ)** アイコンをクリックします。

注： 最新のドライバは、www.quantum.com からダウンロードできます。

注： 1つのライブラリでサポートされる拡張モジュールの最大数はライブラリが実行しているファームウェアのレベルにより異なります。5U、14U、または 23U 構成をアップグレードするには、最新のファームウェアがライブラリにインストールされている必要があります。最新ファームウェアの一覧と Quantum サポートへのリンクは、www.quantum.com をご覧ください。最新ファームウェアを入手するには、Quantum サポートにご連絡ください。